

2006 年度

科目名  フィールドワーク I A	対象学科・学年 文学部日文2 回生	担当者  鈴木 利一
授業テーマ 韓国の世界文化遺産に日本文化の源流を訪ねる。		
授業の概要と目標 「大陸文化伝来の道」をテーマに韓国各地を訪れ、日本と韓国とに共通する文化やその差異を探ります。日本文化の黎明期には、先進的な大陸文化の多くが朝鮮半島経由でもたらされました。そのため、両地域の古代遺跡や文化遺産を見比べた時、そこには大変多くの共通点があることに驚かされます。現地で実物を直接目にするにより、今一度自分たちの文化をふりかえってみたい。それが、このフィールドワークの目指すところです。		
評価方法 講義や現地実習への参加状況（40%）、課題の提出状況（40%）、実習や課題に取り組む姿勢（20%）等を勘案し、総合的に判断します。		
テキスト 講義時に配布する、教材・資料等を用います。	著者	出版社
参考書	著者	出版社
授業スケジュール・内容  実地調査の目的地は、新羅の古都慶州、東洋式古印刷術の故郷である清州、そしてソウルを踏査する予定です。現地調査に際しては、地域、事項ごとにグループ毎の担当を決め事前調査資料を作成します。現地調査の後、これをレポートとしてまとめ提出することになります。フィールドワーク I Aでは、その事前準備段階として以下の日程で講義を進めます。  1. 事前指導と文献調査（4月～7月：月1回程度の集中型講義と個別指導） 各自の担当分野を決め、従来の諸説や手がかりとなる文献調査等をこの期間に進めておきます。この調査にもとづき、韓国での現地踏査時に各自が担当箇所の現地説明を行うための資料を作成します。 また、韓国の映画・音楽などを通して大衆文化に触れ、我々の文化や思考法との共通点や異なる点に触れる機会も設けたいと考えています。  2. 第1次現地踏査（6月～7月） 関西各地に点在する古代の渡来文化に関わる遺跡や寺院への現地踏査を日帰りで行います。この実習を通して、フィールドにおける視点の置き方や調査手法の基礎を学びます。  この期間中に、現地でのコミュニケーションに困らないよう、各自で韓国語の基礎を習得することを期待しています。 また、安全かつ有効なフィールドワーク遂行のためにも、リアルタイムの現地情報の収集が不可欠です。渡航準備に当たっては、文献のみならずインターネットを利用した情報収集が必要になりますので、有効なサイト利用法及び情報や電子データの取り扱いについても、機会のあるごとに解説し指導していく予定です。  ※講義日程は、登録者との相談によって決定しますが、変則的かつ集中的に行われますので、当日は、必ず出席してください。		